

2005年(平成17年)10月13日(木曜日)

骨髄幹細胞で血管再生

信州大病院 重症狭心症に移植

信州大付属病院(長野県松本市)は12日、長野県内に住む重症狭心症の男性患者(61)の心臓に、血管を再生させる作用のある骨髄の幹細胞を分離して移植し、新しい毛細血管を作り出すことに成功したと発表した。男性は血流の改善が認められ、副作用もなかったことから、今月に退院した。

同病院によると、心臓への自己骨髄細胞移植治療で、幹細胞のみを移植したのは国内では金沢大に続いて2施設目。同病院の池田宇一・循環器内科科長は「狭心症や心筋梗塞でバイパス治療が出来ない場合や、従来の治療を受けても狭心症発作を繰り返す患者に対して有効な治療法だ」と話している。

男性は01年1月に狭心症の症状が出て、03年5月に同病院に入院した。心臓周囲を取り巻く血管

のうち3本が狭さく状態になり、1本はバイパス手術ができる場所でなかった。今年9月1日に血管2本をバイパス手術、1本は骨髄細胞移植による再生治療を行った。

患者本人の腰の骨から骨髄液約550ミリリットルを採取。その中から磁気を利用して血管を再生させる幹細胞のみ約5ミリリットルを分離し、患部の心筋へ直接移植した。【藤原章博】